

お茶の水女子大学のグローバル化教育 「女性の力を、もっと世界に。」



グローバル人材育成推進事業キックオフシンポジウム (2013年2月28日～3月1日)

およそ70%のお茶大生が留学したいという希望を持っていることが学生アンケート調査でわかりました。「内向き志向」などとよくいわれますがお茶大生には当てはまらないようです。

実際に留学経験をしている学生の割合は、短期長期を合わせて学部生では10%、大学院生では11.2%というのが現実です。

アンケート調査の数字と現実との乖離の要因はさまざまに推測できますが、主なものとしては語学力、経済的な負担、学事日程があります。

留学を困難にしているこれらの要因を出来るだけクリアすることがとくに重要だと考えています。

まず、語学力の強化については、今年度から新たな教育プログラム、ACT (Advanced Communication Training) プログラムを開始しました。これは、プレゼンテーション、ライティング、ビジネス英語、資格英語などの実践的なプログラムです。本学に入学した学生の語学力は極めて高く、語学力の向上が大いに期待できます。

また、経済的な理由で留学を断念することのないように、留学支援のための基金の設立を予定しています。

さらに、2014年度からは学事日程を変更して、より効果的に海外で学びやすくするために4学期制の導入を決定しました。

[グローバル人材育成推進事業]



グローバル人材育成推進事業のシンボルマーク
(学内コンテストによって決定)

グローバル教育強化のきっかけは、2012年度に文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」(全学推進型)として本学の提案が承認されたことにあります。この事業に採

択された国立大学は、北海道大学、東北大学、千葉大学とお茶の水女子大学の四大学だけでした。

本学のプログラムでの人材像は、多言語能力とIT技術を有し、他文化を理解し、さらに、変化する社会状況を適切に捉え対応できる人材です。

グローバル化する世界で活躍するためには、多様な文化を理解する力が必須です。また、単に語学力だけでなく、課題を発見し解決する基礎的能力が十分に訓練されていなくてはなりません。そのために、お茶の水女子大学では、「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」と「複数プログラム選択履修制度」を導入しました。これは、「深い教養」と「広い専門性」を修得するシステムです。

さらに、この事業を推進するために教育環境も整えつつあります。

ACTプログラムの他に、サマープログラム、インターシップ、スタディーツアー、GREAT-Ochaプログラムを実施し、学修支援情報プログラムなど学生が主体的に学び鍛えるための環境を整備しています。

そして海外の大学でより多くの学生が学ぶことのできるように、協定校を4年間で24大学増やし、現在では54の大学と協定を結んでいます。

今年春に本学で行ったグローバル人材育成推進事業のシンポジウムには、協定締結大学から約80名もの教員や学生が参加し、本学のプログラムは大きな関心をもたれました。さらにその成果は、今年度のサマープログラムへの参加者数の増加に顕著です。

[グローバル人材育成の二つの柱]

グローバル人材を育成する国立の女子大学として、今回の事業のために「女性の力を、もっと世界に。」を標語として掲げました。この標語は、「グローバルな視点をもちリーダーシップを発揮できる女性を育成する」という本学の決意の表明でもあります。つまり、グローバル教育とリーダーシップ教育の二つです。

これまで、本学のグローバル教育は、グローバル教育センターとグローバル協力センターがその役割を担ってきました。

グローバル教育センターは、学内共同教育研究施設として2001(平成13)年に設置された留学生センターを前身とし、その後、国際教育センター(2005～2008年)を経て、2008(平成20)年に現在のセンターとなりました。

グローバル協力センターは、開発途上国女子教育協力センターを前身とし、女子教育を通じて国際協力を促進する活動拠点として2003(平成15)年に設置されました。このセンターでは、「女子教育協力研究」と「幼児教育協力研究」を主な活動としてきましたが、現在はより広く国際協力活動とそのための教育活動を担っています。

他方、リーダーシップ教育は、2008(平成20)年にリーダーシップ養成教育研究センターを設置して強化しています。

本学が目指すリーダー像は、各人が属する組織を担い、機動させることのできる創造的なリーダーです。そのために、「知性」「心遣い」「しなやかさ」をリーダーシップ教育の理念としています。高等教育機関で学ぶ者には、確かな知識の修得は必須の条件です。その上で、他者を尊重し理解できること、変化する状況に自信をもって適切に対処できる能力を身につけて欲しいと考えています。

リーダーシップ養成教育研究センターでは、学外から講師を招いて授業を実施しています。

また、2011年度からは、毎年国際シンポジウムA-WiL(International Research Program for the Advancement of Women in Leadership)シンポジウムを行ってきました。第一回のシンポジウムは、女子大学の国際的ネットワークを基盤として、「未来を創造する大学」をテーマに、翌2012年度には、国際的に活躍する女性とグローバル企業の経営者を招いて「グローバル女性リーダーが未来を創る」というテーマで実施しました。

これらのシンポジウムを通して、学生は、国際社会で活躍することを身近に感じ、そして具体的なキャリアイメージを描ける、と好評です。



A-WiL シンポジウム (2012年2月)

このように、本学ではリーダーシップ教育を基盤にグローバル化教育を行っています。

[グローバル化についての考え方]

今から110年前、1903(明治36)年に、現在のタイ王国から4名の女子を留学生として受け入れたことが本学の国際交流の第一歩といえます。このことは、本学が女子教育の場としての役割を担い続けてきたことを象徴しています。



シヤム国(現・タイ王国)からの留学生

そしてこれまでに、多くの留学生を受け入れ、また、国際的に活躍する多くの卒業生を輩出してきましたが、今から11年前、2002(平成14)年には、途上国女子教育支援として「アフガニスタン女子教育支援」を開始しました。

この活動の開始を記念したシンポジウムでは、本学名誉博士の緒方貞子氏も基調講演をされました。そしてこの時、お茶の水女子大学は国際化の方向性を明確に示しました。それは、単に語学を上達させて海外と交流するだけではなく、どのような地域に生きる人々、どのような文化をもつ人々とも「共に生きる努力をする人」を育成することです。

現代の社会において、グローバルに活躍する人を大学が育てることの意義は、それぞれの文化や社会の在り方を超えて、「共生の実をあげる人を教育する」ことにあると考えています。

女性の社会的活躍が期待され、グローバル化している状況の中で、国立の女子大学としての役割は、単にグローバルに活躍し、リーダー的役割を担う人材の育成では不十分です。今、お茶の水女子大学では、多様な文化を理解し、「共生の実をあげる人」を育てること、そして、新たな価値を創造して、社会に真の豊かさをもたらすことのできる女性リーダーを育成したいと考えています。

お茶の水女子大学長
羽入 佐和子

お茶の水女子大学のグローバル化教育
学長からのメッセージ